

特別支援学校（視覚）の図書室づくり 「利用しやすい図書室づくり」

富山県 富山県立富山視覚総合支援学校

基本データ

所在地 富山市大江千144番地
 児童生徒数 29人
 教職員数 59人
 蔵書数 約10,000冊
 年間貸出冊数 約300冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】バリアフリーの取組

【活動のねらい】

- 本校図書室には、「バーコードリーダーの利点を生かしきれていない」「広い絨毯スペースが活用されていない」「幼児児童生徒の貸出冊数に差がある」「各教室から遠く、行きにくい」という実態があった。
- このことから、①図書室の利用推奨、②本に親しむ機会の設定という課題を導き出し、「図書室の年間貸出総冊数を前年度より1割以上の増加」という達成目標をたてた。

取組・活動の概要

【対象学年】幼稚園から専攻科

【対象授業、頻度、時期】

- 学校生活全般において年度通して（平成28年度からの取組）

【取組の内容】

- 図書室の利用推奨と本に親しむ機会の設定に向けて、（1）図書館の環境設定と、（2）アピール活動に取り組んだ。

取組・活動の工夫や特徴

（1）図書室の環境設定

- 絨毯スペースの整備とコーナー作り
 絨毯スペースに書架設置と読書スペースを確保し、手で読む本、音が出る本、デージー図書（デジタル録音図書）、点字本の各コーナーを整備した。
- 書架の整理と配架の工夫
 書架に分類番号明記、新着図書コーナー設置、時節等に合わせたテーマによる配架の工夫、代本板作成と活用を実施した。
- 貸出方法の工夫
 貸し出し用パソコンへの読み上げソフトのインストール、バーコードリーダーの使用法の明記を行った。



じゅうたんスペース



バーコードリーダーによる貸し出しコーナー

（2）アピール活動

- 年度初めのオリエンテーション
- 新着図書を中心としたポスター作りと掲示
- 幼児児童生徒のお気に入りの本紹介文の掲示（点字シールの利用）
- 図書室だよりの墨字版と音声版の年3回発行

- 貸出補助時間の設定
- 各学部による読書週間の行事企画と実施



階段下の新着図書案内



新着コーナー

取組・活動の成果や今後の展望

- 図書室の年間貸出総冊数は、平成 27 年度の 258 冊から平成 28 年度は 379 冊となり、4 割以上の増加となった。
- また、視覚障害のある生徒・教員も貸出返却業務が可能になったことで、バーコードリーダーの利用率も 48% から 92% へと跳ね上がった。
- 令和元年度現在のバーコードリーダー利用率は、100% となっている。
- 近年は、図書利用としてだけでなく、生徒の美術作品が展示されたり学習に活用されたりするなど、今までとは異なる空間となってきている様子もみられる。
- 今後も引き続き図書室が校内で大切な場所となるためには、学校図書館としての基礎的な整備が確実に行われるための事務処理に関する引き継ぎを確実に行うことと視覚障害のある幼児児童生徒の多様な実態に応じた図書室運営の工夫が必要だと考える。

